

⑯ 日本国特許庁 (JP)
 ⑰ 公開特許公報 (A)

⑮ 特許出願公開
 昭58—41554

⑯ Int. Cl.³
 A 61 G 1/00
 B 66 C 1/22

識別記号

厅内整理番号
 6664—4C
 6662—3F

⑯ 公開 昭和58年(1983)3月10日
 発明の数 1
 審査請求 未請求

(全 4 頁)

④ 載せ替え搬送装置

⑤ 特願 昭56—140585
 ⑥ 出願 昭56(1981)9月7日
 ⑦ 発明者 早川喜美
 東京都品川区大崎二丁目1番17

号 株式会社明電舎内
 ⑧ 出願人 株式会社明電舎
 東京都品川区大崎2丁目1番17
 号
 ⑨ 代理人 弁理士 光石士郎 外1名

明 翻 番

1 発明の名称

載せ替え搬送装置

2 特許請求の範囲

ほぼ平行な一対のブレードにそれぞれ無端ベルトが巻き掛けられ且つ一方に移載体が載せられ得る載せ替え機の前記無端ベルトの一方の巻き掛け端部に上端部が前記載せ替え機の上方に位置するアームの下端部を固定し、このアームの上端部に搬送機に懸吊される搬動片の下端部を回動自在にピン止めすると共に前記移載体の有無に關係なく前記載せ替え機がほぼ水平状態となるような回動方向のばね力を具えたねじりばねを前記アームと前記搬動片との間に介絶したことを特徴とする載せ替え搬送装置。

3 発明の詳細な説明

本発明は把持することが困難な移載体を載せ替えたり或いは移載する装置に関し、特に横臥した病人をベッド等からストレッチャ等へ移載

したり或いはストレッチャ等からベッド等へ移載する場合に好適なものである。

病院等において寝たきり患者のベッドを交換したり寝たきり患者を移動するため、ストレッチャ等に載せ替えたり或いはストレッチャから手術台に載せ替えする際には、多人数の介護人が必要であるばかりか、その介護に輪線を要すると共に介護人には大へんな労働となつていた。そこで、このような労作業を介護人に代つて機械に代用させることが安全の上からも強く望まれている。

しかしながら、動力によつて寝たきり患者(以下患者という)を空間的に移動させることは比較的容易に実現可能であるが、このような患者をベッド等から持上げる際や、一度持上げた患者をベッド等に載せる際に問題が多いため従来実現されていなかつた。つまり、ベッド上の患者の体とベッドの間に機械を繋り込ませて患者の体を持上げる際に、患者の柔軟な体に異和感や撮影感を与えずに抱い上げることは非常

え機 4 が患者 14 とベッド 15 との間にもぐり込んで行く。この場合、ワイヤロープ 9 を一定長さに張りつめた状態においてもねじりコイルばね 13 が負荷に応じて回動して吸衝能力を発揮し、患者 14 に無理がかからない。

なお、振動片 10 の長さ及びねじりコイルばね 13 のばね力を適当に設定することにより、常に吸せ替え機 4 をほり水平に保持することができる。又、介助者はホイスト等が完全に停止してワイヤロープ 9 の引き出しや巻き取りを行なわなくても両手でアーム 5a, 5bを持ち、容易に患者 14 の移載を行なうことができる。患者 14 を吸せ替え機 4 から下ろす場合には、ドライビングブーリ 3a, 3b を逆転しながら吸せ替え機 4 を患者 14 とベッド 15 との間から抜き外せば良い。

このように本発明の吸せ替え搬送装置によると、吸せ替え機と一体のアームの上端にねじりばねを介して振動片を回動自在に取り付けたので、吸せ替え機に対する移載体の有無にかかわ

らず吸せ替え機がほり水平状態となるよう振動片が回動する。又、ホイスト等の搬送機が固定状態にあつても、吸せ替え機はばねを介して搬送機に連結された状態のため、吸せ替え機をある程度自由に動かすことができる。

4. 図面の簡単な説明

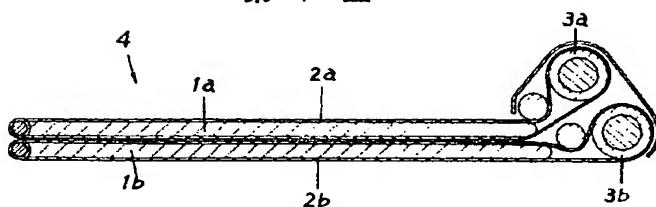
第1図は吸せ替え機の内部構造の原理を表わす断面図、第2図は本発明による一実施例の支持部を表わす正面図、第3図(a)はその左側面図、第3図(b)はその上端部の支持部を表わす拡大図、第4図はその作動原理図であり、図中の符号で、

- 4 は吸せ替え機、
- 5a, 5b はアーム、
- 9 はワイヤロープ、
- 10 は振動片、
- 11 はピン、
- 12 はプラケット、
- 13 はねじりコイルばね、
- 14 は患者、

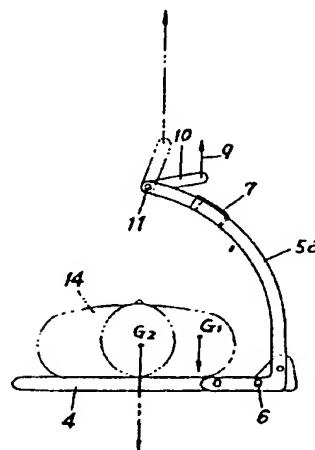
15 はベッドである。

特許出願人
株式会社 明電舎
代 理 人
弁理士 光石士郎
(他1名)

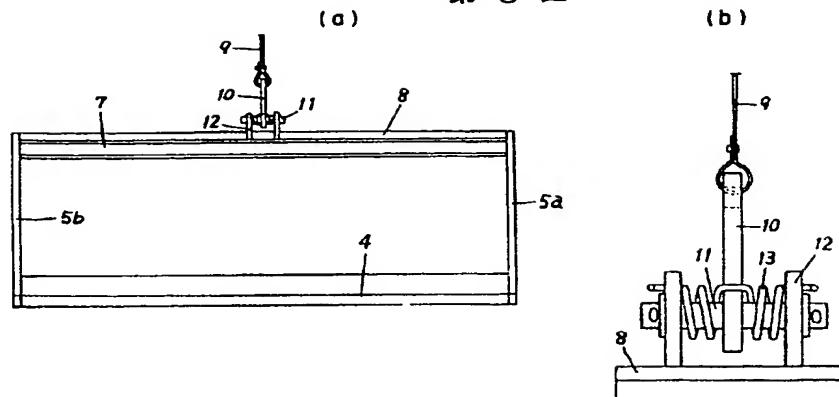
第1図



第2図



第3図



第4図

